学校番号	3017

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	現代文Ｂ	単位数	2	年次	２年次
校内名称	現代文			ユニット数	1.5	必選別	必
使用教科書	精選現代文B　改訂版（筑摩書房）						
副教材等	新国語便覧（大修館書店）　新成現代文２・錬成現代文２＋（尚文出版）　現代文単語（桐原書店）　大学入試に出た核心漢字２５００＋語彙１０００（尚文出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〈現代文とは〉
　現代文という科目は、様々なものの見方や、近現代とはいかなる時代であるのかを学び、学んだことを基盤として多面的に物事を考える能力を身につけるための科目である。そのためには文章を正確に読み取り、筆者の言わんとしていることを正しくつかむ必要がある。そしてそれを書いたり話したりして、人に間違いなく伝わるように表現しなくてはいけない。様々な文章を読んだり聞いたりする中で、筆者や話者、場合によっては出題者とコミュニケーションをとり、自分の中には存在しなかったものの見方・考え方に触れ、考えを深めて大きくなってもらいたい。

〈漢字・現代文単語の学習について〉
　新たな漢字・新たな言葉を知るということは、新たな概念を得ることである。それは即ち、自らの思考の枠組みを広げ、抽象的思考能力を育む行為なのである。単に漢字・用語を丸暗記するのではなく、きちんとそれらの意味を理解した上で使えるようにして、読解力やコミュニケーション力の向上に役立ててもらいたい。

2　学習の到達目標

　現代を知る上で必要不可欠な、言語論・科学論・芸術論・近代論など様々なジャンルの文章を丁寧に読解し、自分の頭で考え、必要に応じて言語で表現する。漢字・現代文単語の学習にも随時取り組み、一生ものの読解力（聞き取る力も含む）と表現力（書く力・話す力）を身につける。

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心･意欲･態度	b:話す･聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識･理解
観点の趣旨	言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書くことができる。	文章を的確に読みとり、自分の考えを深め、発展させている。	漢字や現代文単語、現代思想について理解し、知識を身につけている。
評価方法	授業態度、提出物	議論、発表等	提出物、定期考査	定期考査	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
評価点の割合は考査点が９０％程度、平常点が１０％程度。

4　学習の活動

期間	単元名	学習内容　（授業教材）	主な評価の観点					単元(題材)の評価基準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期中間考査まで	評論①、小説①	「アイオワの玉葱」 長田弘 「山月記」 中島敦	○			○	○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 d：高校レベルの文章を読みとることができている。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度、提出物、定期考査
前期期末考査まで	評論②、小説②、詩	「物語るという欲望」 内田樹 「水仙」 太宰治 「永訣の朝」 宮沢賢治	○		○		○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 c：読みとった内容を元に、自らの考えを書くことができる。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度、提出物、定期考査
後期中間考査まで	評論③、小説③	「こころ」 夏目漱石 「ファンタジーワールドの誕生」 今福龍太	○	○			○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 b：自らの解釈を積極的に発表し、議論できている。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度、提出物、定期考査、発表等
後期期末考査まで	評論④、⑤、短歌	「『である』ことと『する』こと」 丸山真男 「身体、この遠きもの」 鷲田清一 短歌	○		○	○	○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 c：読みとった内容を元に、自らの考えを書くことができる。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度、提出物、定期考査

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　　b：話す・聞く能力　　c：書く能力
d：読む能力　　e：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点にのみ○をつけている。